

## (2) オキナワモズク養殖試験

当 真 武  
齊 藤 雄之助\*

### 1 目 的

佐和田浜漁場(図-1)はモズクの発芽基質として有効なアジモ場を有しながら豊作時においてもその生産量は少ない。その原因を追求し、モズク養殖技術の導入をはかるため試験を実施した。

### 2 方 法

モズクの採苗は母藻からの直接採苗をやり、養殖網(1.5×18.5 m)を浸漬する方法をとった。網は10枚1組とアンカー20個(67kg/個)を1基とし、3基作成した(図-2)。設置場所は図-1に示したようにアジモ場上に2基、漁場のほぼ中央部で、アジモの点在して生育するが大部分が砂地帯に一基設置した。このような漁場への展開の前に図-3のような育苗地あらかじめ用意し、そこで約1カ月育苗して、20枚1組のワクに張り出す予定である。

### 3 試験経過と現状

天然における生産量は豊作不作の波が激しく不安定であり、それによってモズクの発芽時が大巾に異なる。本年は特に宮古において発芽時期がおくれ採苗用の母藻の量が充分でなかった。

佐和田浜と宮古島与那覇湾のモズクの発芽状況を調査した結果を示すと次の通りである。

表-1 モズクの発芽状況調査

場 所	調査年月日	1978. 1. 19	1978. 2. 23 ~ 25
佐 和 田 浜		1.7 mm	なし
与 那 覇 湾		8.9 mm	55.0 mm

このように表-1に示すように1978年1月19日の調査では、佐和田漁場においても、リュウキュウスガモ等の海草葉上に、モズクの盤状体や幼体が多数観察されるが、藻体長が与那覇湾に比べて短い。さらに1978年2月23~25日の調査では、佐和田浜においてはモズクの幼体を観察することはできなかった。これらの原因については、他の項目の調査資料も参考にしながら室内実験で追求する予定である。

これらの状況から、今回のモズク養殖試験は、与那覇湾産のモズクを使用し、与那覇湾口にある元カツオ節工場のタンクで採苗中である(図版II-①-②)。育苗中の展開は3月10日を予定している。なお、与那覇湾と佐和田浜の両漁場の比較を検討するため、採苗は同時に、両漁場へ各々網45枚を展開するため作業中である。

### 4 課 題

本年度のモズク養殖実験期間内では天然母藻の生育が充分量なく、採苗及び生育試験の結果を検討できなかった。オキナワモズクの天然漁場における発芽生育は年変動が大きく、本年度は全般的にオキナワモズクの生育量は少ないようである。

したがって、佐和田漁場におけるオキナワモズクの採苗技術の導入と、あわせて、同漁場におけるモズク養殖の可能性を検討するため養殖試験を通して生育条件を究明する必要がある。

\* 南西海区水産研究所

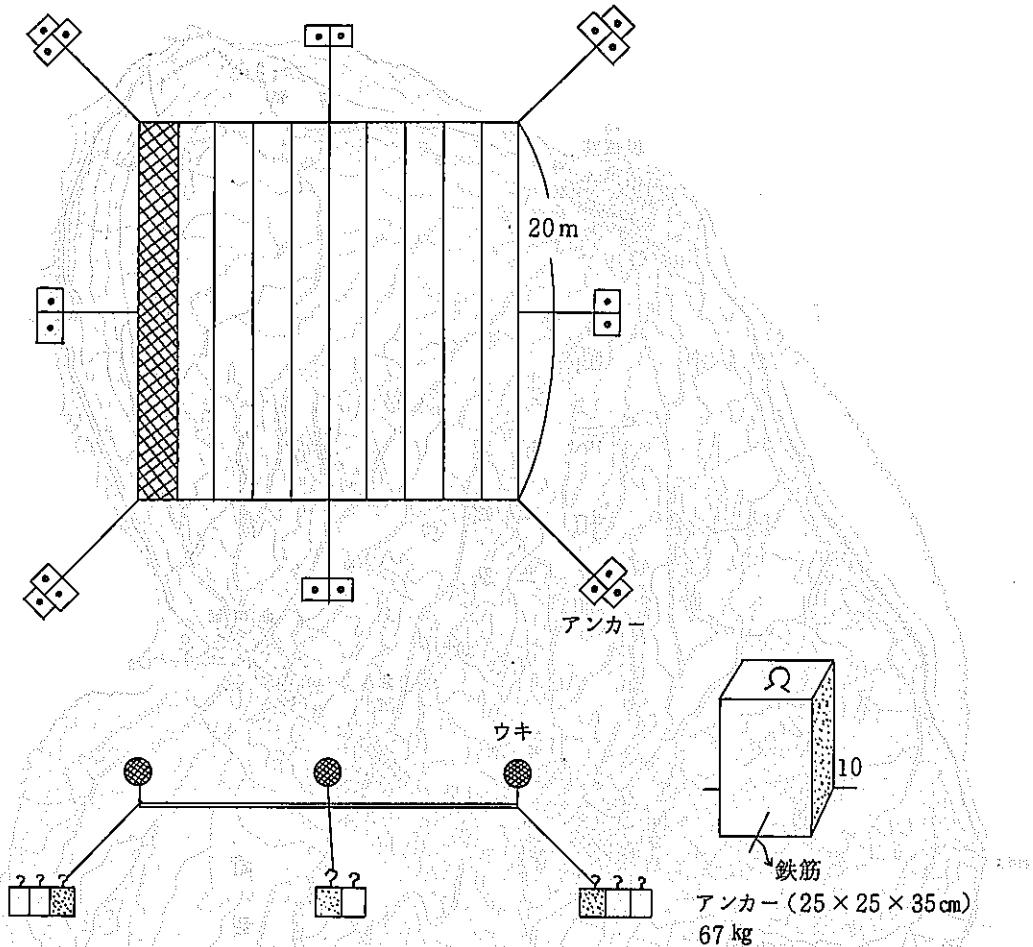


図 2 モズクの網張りセット

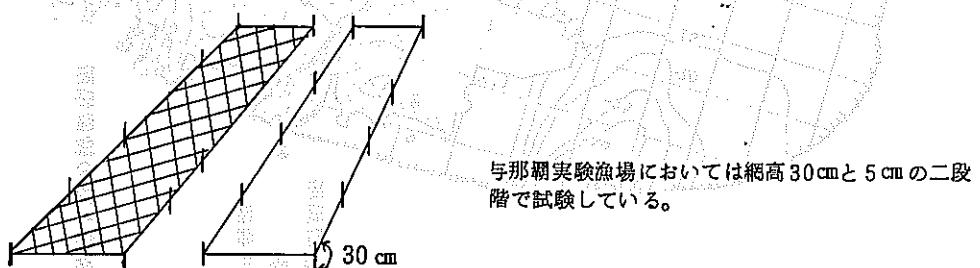


図 3 アジモ上での育苗(中間育成)

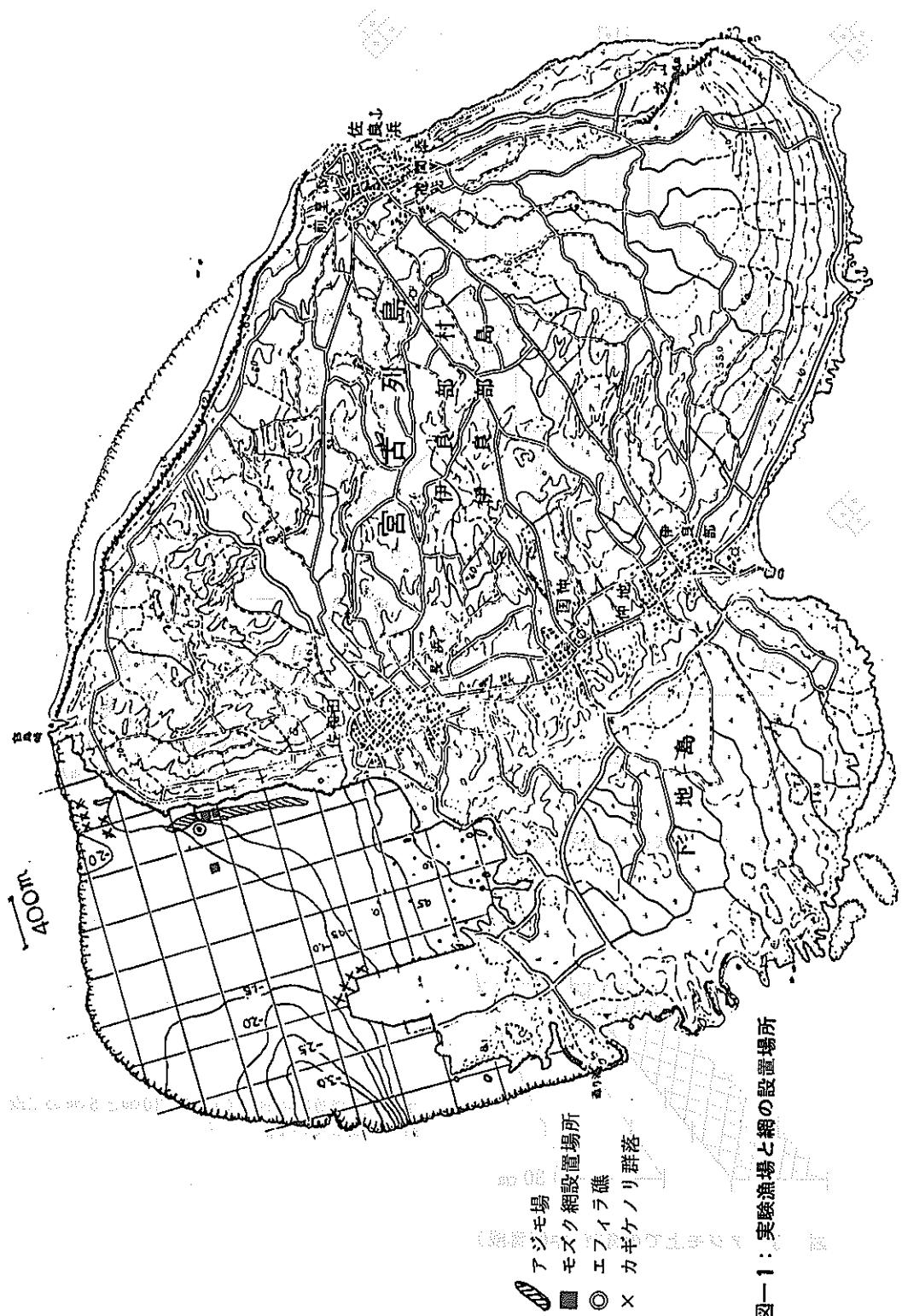
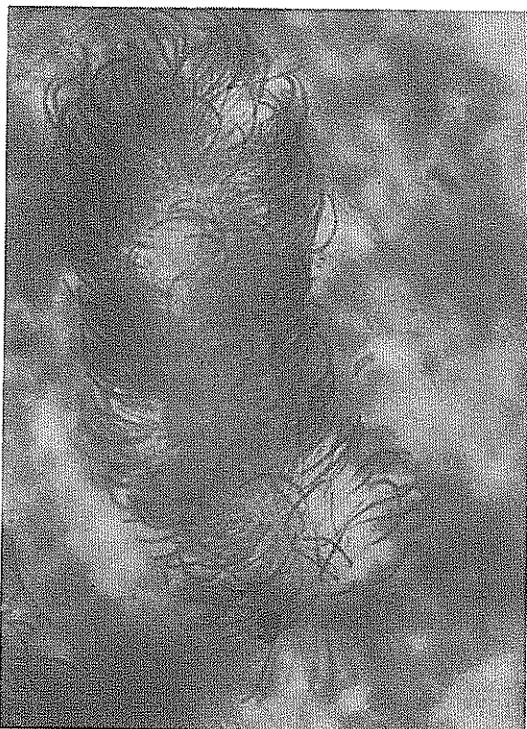
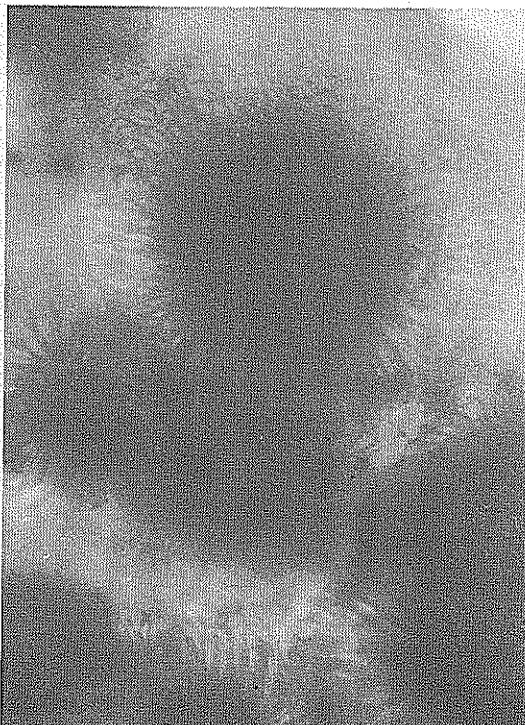


図-1：実験漁場と網の設置場所



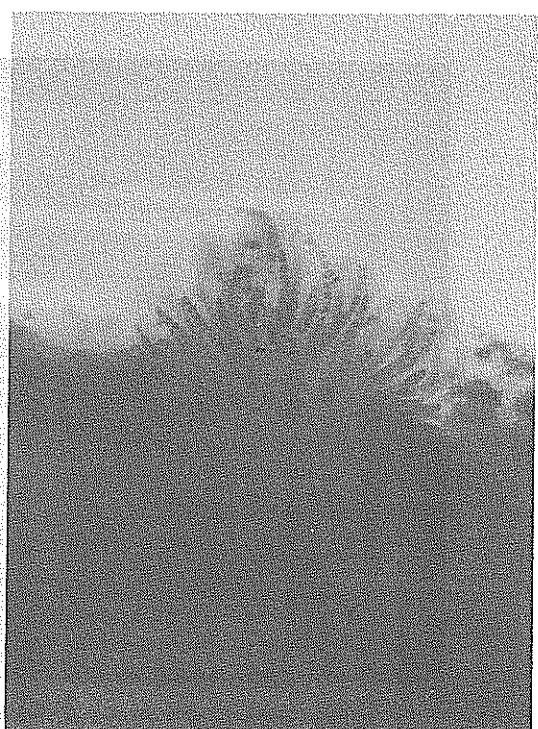
① オキナワモズクの幼体  
海草上・佐和田浜・1978-1-29



② リュウキュウスガモ葉上に着生した  
モズク（サワダ） 78-1-29



③ オキナワモズク幼体の拡大  
右上に中性複子のうがみえる。

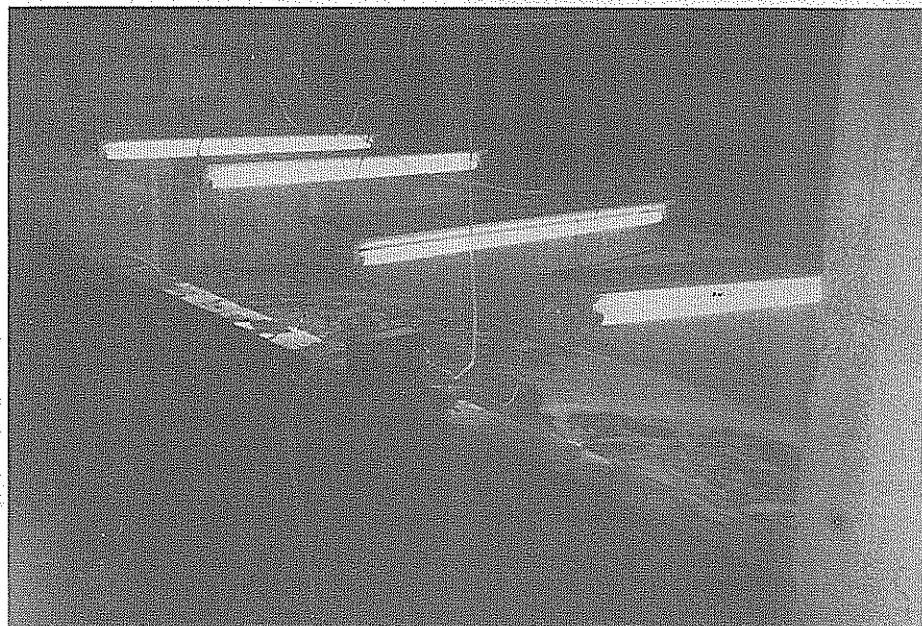


④ リュウキュウスガモ葉上に着生した  
モズク（側面） 1978-1-29



① 空カンに着生したモズク  
与那瀬湾内 1978-2-25

第三回はモズクの繁殖地として水槽を用いて  
試験的に行なった。結果は、モズクの繁殖能  
力は、水槽内でも認められた。



② モズク母藻からの採苗 1978-2-25

第三回はモズクの繁殖地として水槽を用いて  
試験的に行なった。結果は、モズクの繁殖能  
力は、水槽内でも認められた。